

令和元年度老人保健健康増進等事業

通所・訪問リハビリテーションのデータ収集システムの活用に関する調査研究事業

株式会社三菱総合研究所

1. 事業実施目的

本調査研究においては、介護事業所から利用者に関する情報を収集し、収集したデータに基づくフィードバックによりサービスの質の改善を目指す通所・訪問リハビリテーションのデータ収集システム（VISIT）について、現時点の活用の実態や課題を把握するとともに、フィードバックの改善に向けて、データの蓄積により可能となる分析案を提示することを目的とした。

2. 事業の概要

(1) 活用実態調査

訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所を対象として、VISITの活用実態の把握のためのアンケート調査を実施した。主な調査項目は以下のとおりである。

- ▶ 事業所の基本情報
 - ・ リハビリテーションマネジメント加算の算定状況
 - ・ 利用者の状態等に関するデータを活用したサービス内容等の分析の有無
 - ・ 通所・訪問リハビリテーションのデータ収集システム（VISIT）の活用の有無
- ▶ VISITを現在活用している事業所における活用状況
 - ・ VISITを知った経緯、活用している目的
 - ・ 利用者の情報をVISITへ入力する負担、負担を感じる理由
 - ・ インポート機能・利用者フィードバック機能の活用の有無、 等
- ▶ VISITを現在活用していない事業所における認知等の状況
 - ・ VISITの認知の有無、使用経験の有無、現在VISITを活用していない理由
 - ・ VISITを活用する予定の有無、活用に向けて希望すること、 等

(2) データの蓄積により可能となる分析内容案の検討

VISITに送信されているリハビリテーション計画書等の様式から把握可能な項目の精査を行い、分析案を作成するとともに、その妥当性や利活用について検討委員会で有識者の意見・助言をふまえながら検討を行った

3. 事業結果の概要

アンケート調査に基づき、現在のVISITの活用実態の整理を行った。また、今後の活用拡大に向けた課題について、VISITシステムの認知・インポート機能の活用・フィードバック機能の充実の観点から検討した。

また、VISITへ蓄積したデータについて、①リハビリテーションの提供実態の把握②リハビリテーションの効果の把握の2つの観点から分析案を提示し、分析案の活用方法や、活用の際しての留意点を検討した。

以上